



浄妙寺境内絵図(部分)

寺の略史

当寺は稲荷山と号し、鎌倉五山第五位の寺格をもつ臨濟宗建長寺派の古刹である。源頼朝の臣臣で豪勇の士であった足利義兼(1199没)が文治四年(1188)に創建し、初め願楽寺と称した。開山は退耕行勇律師で、当初は密教系の寺院であったが、建長寺開山蘭溪道隆の弟子月峯了然が住職となってから禪刹に改め、ついで寺名も浄妙寺と称した。寺名を改称したのは正嘉年間(1257～59)とみられる。歴代の住持には約翁徳俊・高峰顕日・竺仙梵徳・天岸慈広など名僧が多い。中興開基は足利尊氏の父貞氏で、没後当寺に葬られた。至徳三年(1386)足利義満が五山の制を定めた頃は七堂伽藍が完備し、塔頭二十三院を数えたが、火災などのため漸次衰退し、現在は総門・本堂・客殿・庫裡等で伽藍を形成している。境内は国指定史跡。



開山行勇律師像

開山略伝

行勇律師(1163～1241)は相模国酒匂(小田原市)の人で初名は玄信、莊蔵房と称した。幼くして蓮變出家し、真言密教を学んだ。養和元年(1181)には鶴岡八幡宮寺の僧侶となり、ついで永福寺・大慈寺の別当にも任じ、文治四年(1188)足利義兼が当山を建立すると開山に迎えられた。正治元年(1199)榮西が鎌倉に下向すると、その門に入って臨濟禪を修め、榮西没後は寿福寺二世に任じている。頼朝や政子に信任されて戒を授ける一方、「所住の寺、海衆満堂」といわれるほど信望され、実朝もあつく帰依した。仁治二年七月、東勝寺で没した。

什宝(非公開)

○国重文 ○県重文 △鎌倉市文化財

- △一、木造 釈迦如来坐像 南北朝時代 1 躯
- 一、木造 退耕行勇坐像 南北朝時代 1 躯
晩年の開山の姿を伝える優れた肖像彫刻(頂相)。個性的な面貌をよくとらえている。
- 一、木造 阿弥陀如来立像 鎌倉時代 1 躯
上品下生印の来迎尊で、平政子の白檀の弥陀という。鎌倉国宝館寄託中。
- 一、木造 三宝荒神立像 室町時代 1 躯
鎌倉では珍らしい大きな尊像。仏法僧の三宝を守り、火を防ぐ神として信仰された。
- 一、木造 伽藍神倚像 享保十六年(1731) 1 軀
- 一、木造 達磨大師坐像 享保十六年(1731) 1 軀
- 一、木造 浅高大明神立像 江戸時代 1 軀
当寺の塔頭直心庵に安置されていた像。婦人病に靈験のある神。
- 一、木造 藤原鎌足像 江戸時代 1 軀
鎌倉という地名はこの像に由来すると『鎌理稲荷明神縁起』に書いている。
- △一、紙本淡彩地藏菩薩像 足利尊氏自刻賛 1 幅
足利尊氏の地蔵信仰を物語る作品である。
- 一、金銅燈籠 文政十一年(1828) 1 対
- 一、青磁香炉 鎌倉国宝館寄託中 1 個
- 一、紙本墨画浄妙寺境内絵図 1 幅
伽藍が完備していた往古の寺容が偲べる貴重な絵図。
- △一、紙本墨画浄妙寺文書 3 巻 9 通
(外、近世古文書類60数点)